

2014/9/1

しろひげ@Kurobane です。

9月になりました。

というよりは、照れば炎暑、降れば濁流という乱調の下、亡き人と平和を思ういつもの月に、さらに鎮魂の日々を加える 31 日間が終わりました。

「平成 26 年 8 月豪雨」と名付けられた今年の晩夏は、被災された方々の悲嘆の涙で濡れそぼっています。

列島を竜巻豪雨かぎ裂きに 朝日川柳

土石流が残したむき出しの断層の画像は、その時を境に、多くの人々に別の日常が始まっている事実を私たちに迫ります。

3 年半前の東日本大震災の時もそうでしたが、こんな悲惨な状況を目にすると、私は次のような詩を思い出します。

< 失意の胸へは / だれも踏み入ってはならない / 自身が悩み苦しんだという / よほどの特権を持たずしては - >

エミリー・ディキンソンという米国の女性詩人による無題の詩です。19 世紀にボストンに近い町で静謐な生涯を送った人とされています。

悲痛な胸に踏み入ること、わけしりに同情を語ることは当事者に失礼なことかもしれませんが、せめて朝ドラの主人公のように「想像の翼」を広げておきたいものです。そして、けなげに逆境と闘っている人々が画面に出ていたら、「ごきげんよう」と声をかけたいものです。

ところで、9月は欧米では新学期。

「グローバル化が進んで、外国に合わせたほうが便利じゃないのか」と東京大学が言い出し、同調する気配もありましたが、その後話題に上ることも少なくなりました。

暗いニュースが続いただけに、今年だけはこの9月を再出発、新学期にしたいという思いが深まります。被災された方々に、一日も早くあの愛おしい、平凡な日常がもどってくれることを祈りながら、あすは少しでも笑顔が増えると信じながら、前を向く月にしましょう。

追伸

当地の出羽三山を開いた開祖蜂子皇子（はちこのおうじ）の像が140年ぶりにご開帳されています。今回の公開は、今年が12年に一度の羽黒山午歳御縁年という特別な年にあたることから東日本大震災の被災地の多くの方々に生きる力を与えたいとの願いで特別に実現したものです。公開は今月30日まで、五重塔のライトアップは13日までです。

どうぞお越してください。

黒羽根整形外科

黒羽根 洋司